よねだ ところどころ

第六号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

馬串山と馬串峠

読み方　マグシヤマ　マグシトウゲ

上記地形図は美濃加茂市地理情報システムを利用しています

写真は今の方向から馬串峠の鞍部を見たところ

下米田と牧野の境界にあり、この山間(やまあい)を抜ける道が「馬串峠(マグシトウゲ)」である。峠は地域の境界でもある。昔このあたりには人家は少なく、ここを移動する人は昼間はともかく、うす暮れ時や夜間には恐怖心を伴ったと思われる。美濃加茂市史民俗編の記載には、ここには「まぐしのまぐ太郎」とか「こいどの小太郎」という名前が付いたキツネとタヌキがいたという。

まぐ太郎がキツネで、小太郎がタヌキということであろうか。これらがどのように通行する住民をたぶらかしたかは具体的には示されていないが、いずれの名称も男性であることから、女狐が男性をたぶらかすというようなものではないのであろう。

段丘に突出した山は「マグシヤマ」と発音する。現在では漢字で「馬串山」と当てている。濃州徇行記巻二によると「加茂郡下牧野村・・横山・馬越・迫間など云うなり、また馬越と云うところに・・」とあり、串という漢字ではなく「越」という漢字を当てている。地名表記における漢字の使用については、時代により変化をすることはもちろんであり、人為的に変えられることも普通である。また、地元に現在居住する人も「マムシ(毒ヘビ)がいるので、マムシのいる山」とか、「昔、馬が串刺しになった」とか説明される向きがある。地名分析的には「マ」「クシ」に分けて考えれば「マ」は「馬・間」「クシ・コシ」は「越すところ、またその意味から砂丘や小丘の(長くなった、連なった高まり)という地形語」と考えると説明が合理性を持つ。「馬串山」は、戦国期に砦として機能したので、「金山城の森長可」と「加茂山城の肥田玄蕃」が争い、いわゆる「米田合戦」の舞台にもなった場所である。